JUKI CO.,LTD.

MODEL A630
ご使用のてびき

Artisan

アーチザン

4THREAD
OVERLOCK MACHINE
DIFFERENTIAL FEED

お買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
- ご使用前に、この「ご使用のてびき」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
- 保証書はお買い求めの販売店から必ずお受け取りのうえ、この「ご使用のてびき」とともに大切に保管ください。

・・・・・・ 安全にご使用いただくために ・・・・・・

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを守って下さい。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。　FOR USE IN JAPAN ONLY

⚠ 警　告　　感電、火災の恐れがあります

1．一般家庭用交流電源100Vでご使用下さい。
2．以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。
　・ミシンのそばを離れるとき　　・ミシンを使用したあと　　・ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注　意　　感電、火災、けがの原因となります

- ミシンの内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込んだりしないでください。
- 分解しないでください。故障の原因になります。
- 落としたり、ぶつけたり強い衝撃を与えないでください。
- コーヒー、ジュース、水などをこぼさないでください。
- ぬれた手で操作しないでください。
- 屋外や、スプレー製品をご使用の部屋、または酸素を扱っている場所ではご使用にならないでください。
  また、ストーブやアイロンのそばでのご使用は避けてください。
  使用温度は0℃～40℃です。
- 所定の電源電圧以外でのご使用はなさらないでください。
- 電源コードの接続には、延長コードの使用や他の電気製品とのたこ足配線をしないでください。
- フットコントローラーの上に物をのせないでください。
- お客様自身の分解、改造はしないでください。
- ミシンの操作時は、フロントカバーを閉じてください。
- ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、ルーパー、メス、プーリーなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。
- 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
- 以下のことをするときは、電源スイッチを切つてください。
  ・針、針板、押え、アタッチメント、メスを交換するとき
  ・針糸、ルーパー糸をセットするとき
  ・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行なってください）
  ・「使用の手引き」に記載のあるミシンのお手入れを行なうとき
- ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店、または、サービスセンターにて点検、修理、調整をお受けください。
  ・正常に作動しないとき
  ・落下などにより破損したとき
  ・水に濡れたとき
  ・電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき
  ・異常な臭い、音がするとき

目　　次

1．ご使用になる前に

各部の名称 2
付属品 3
縫い始める前に行なうこと
　電源ソケット 4
　電源スイッチ 4
　前カバー 4
　フットコントローラー 4
糸案内棒を立てましょう 5
　糸ごまキャップ 5
押え上げレバー 6
押えの取りかえ方 6
針の取りかえ方 7

2. さあ縫ってみましょう

糸を通しましょう
　上ルーパー糸を通します 8
　下ルーパー糸を通します 9
　自動糸送り装置の使い方 10
　右針の糸の通し方 11
　左針の糸の通し方 12
試し縫い 13
いろいろな縫い方とミシンのセット 14
糸調子のとり方 15
かがり巾調節ダイヤル 16
縫い目長さ調節ダイヤル 16
押え圧力調節ネジ 16
差動送り
　差動送り調節レバー 17
　縫い伸びしやすい布地の場合 17
　縫い縮みしやすい布地の場合 17
巻きロック切替えレバー 18
フリーアーム 18
上メス解放レバー 19
基本的なテクニック
　外角縫いの手順 20
　カーブ縫い 20
　縫い目の解き方 20
　飾り縫い 21

3. ミシンの手入れ

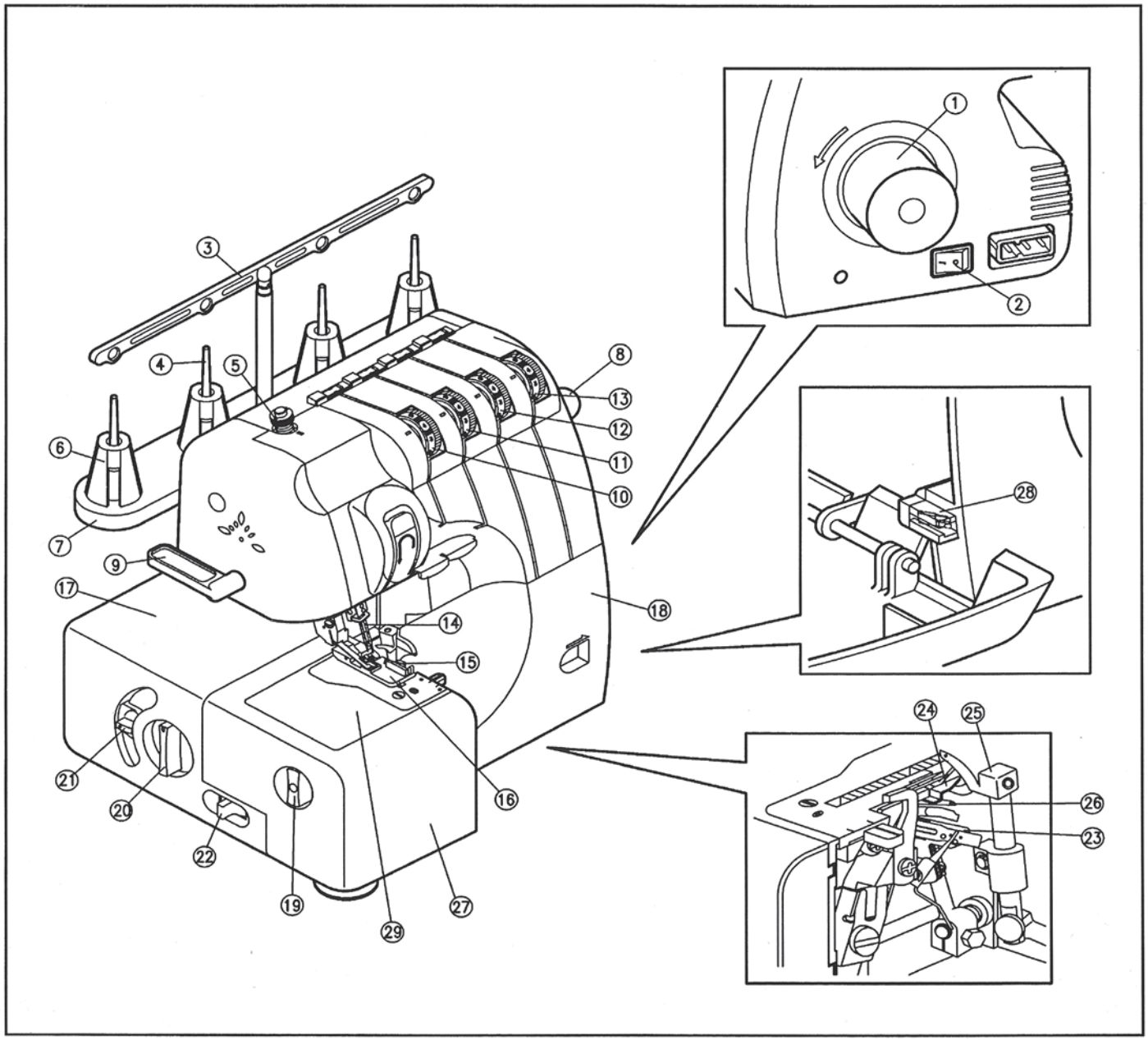
電球の取りかえ方 22
メスの取りかえ方 22
掃　除 23
注　油 23

4. 故障かな?と思ったら…… 24

5. ミシンの仕様 25

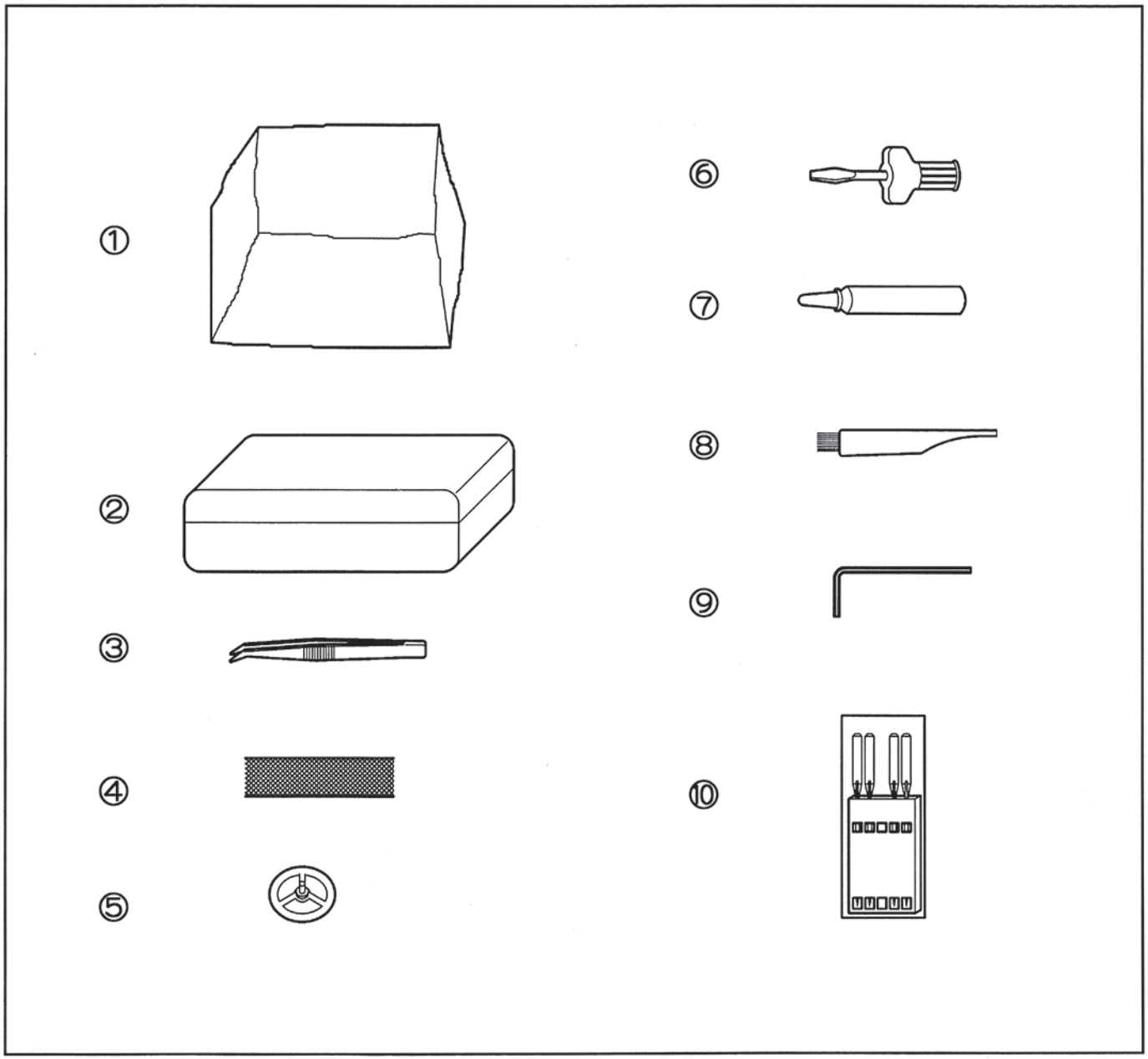
1. ご使用になる前に ……

■ 各部の名称



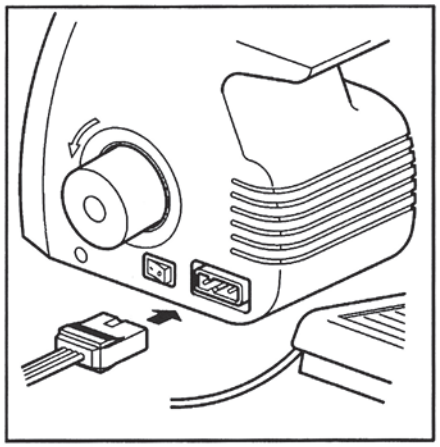
1. プーリー
2. 電源スイッチ(ライトスイッチ兼用)
3. 糸案内棒
4. 糸立て棒
5. 押え圧力調節ネジ
6. 糸ごまクッション
7. 糸立て台
8. 糸調子解放ボタン
9. 押え上げレバー
10. 左針糸調子ダイヤル
11. 右針糸調子ダイヤル
12. 上ルーパー糸調子ダイヤル
13. 下ルーパー糸調子ダイヤル
14. 針（右／左）
15. 上メス（可動メス）
16. 押え金
17. 布板カバー
18. 前カバー
19. かがり巾調節ダイヤル
20. 縫い目長さ調節ダイヤル
21. 差動送り調節レバー
22. 上メス解放レバー
23. 糸送り装置
24. 巻きロック切替えレバー
25. 上ルーパー
26. 下ルーパー
27. 補助テーブル
28. 前カバー安全スイッチ
29. アームカバー

■ 付属品



1. ミシンカバー
2. 付属品ボックス
3. ピンセット
4. 糸ごまネット×4 個
5. 糸ごまキャップ×4 個
6. ドライバー
7. ミシン油
8. ブラシ
9. 六角レンチ
10. 針セット

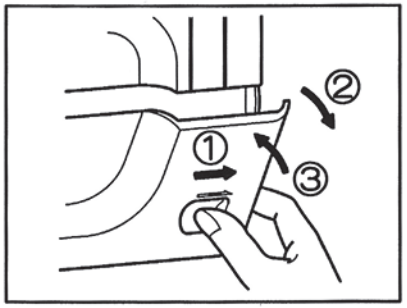
■ 縫い始める前に行なうこと



電源ソケット

＊ 電源プラグの形状にあわせて本体の電源ソケットに差し込んでください。

＊ ミシンを使わないときは必ずプラグをソケットから外してください。

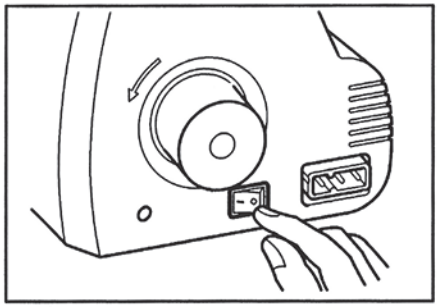


前カバー

＊ 前カバーを開けるときは、図の様にカバーを右にスライドして①、手前②に開けてください。

＊ 閉じるときは③の方向に閉じれば、バネの力で左側に戻ります。

＊ 前カバーには安全スイッチが付いており、閉じていないとミシンが動きません。縫うときには確実にカバーが閉じていることを確認してください。

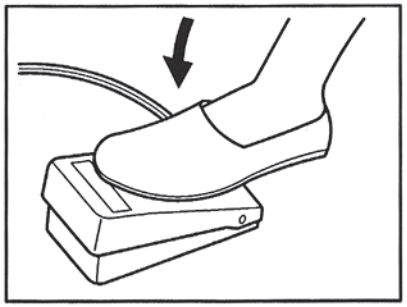


電源スイッチ（ライトスイッチ兼用）

＊ スイッチを「ー」の方に押すと、電源が入り、ランプが点灯して使用可能な状態になります。

＊ スイッチを「○」の方に押すと電源が切れ、ランプが消灯します。

＊ ミシンを使わないときは、スイッチを切るだけでなく、必ず電源プラグを外してください。

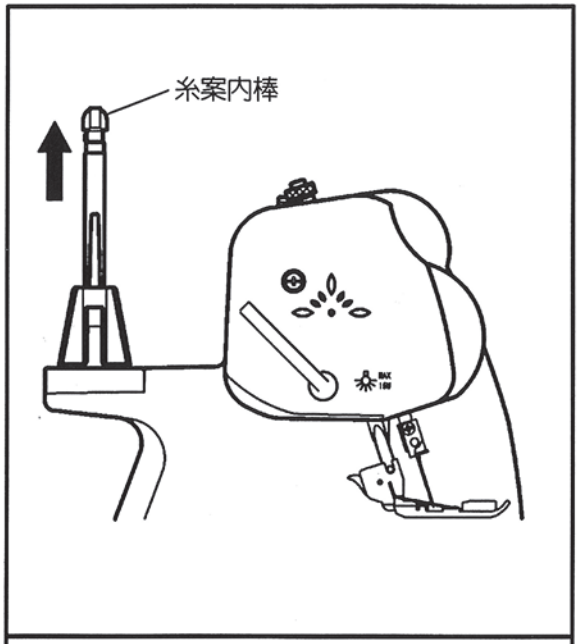


フットコントローラー

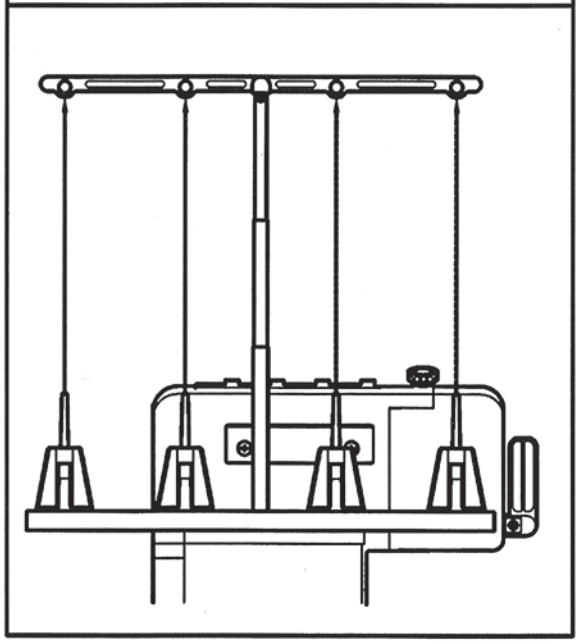
＊ フットコントローラーを踏み込んでゆくとミシンが動き出します。

＊ 踏み込むほどミシンの縫い速度が増します。
足をはなすとミシンが止まります。

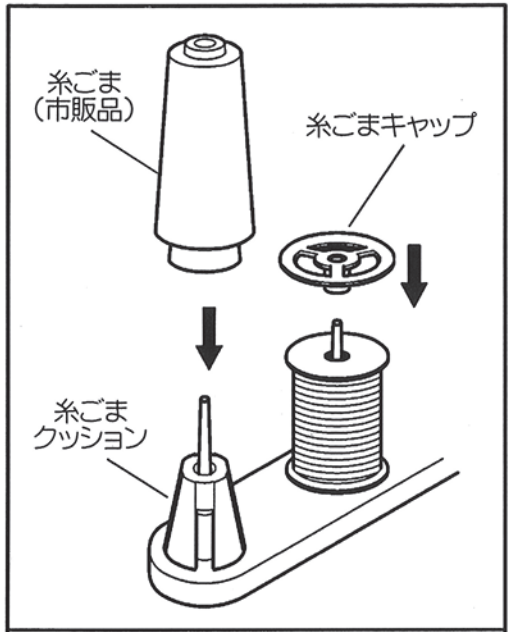
■ 糸案内棒を立てましょう



＊ 糸案内棒を一番上まで引き上げます。



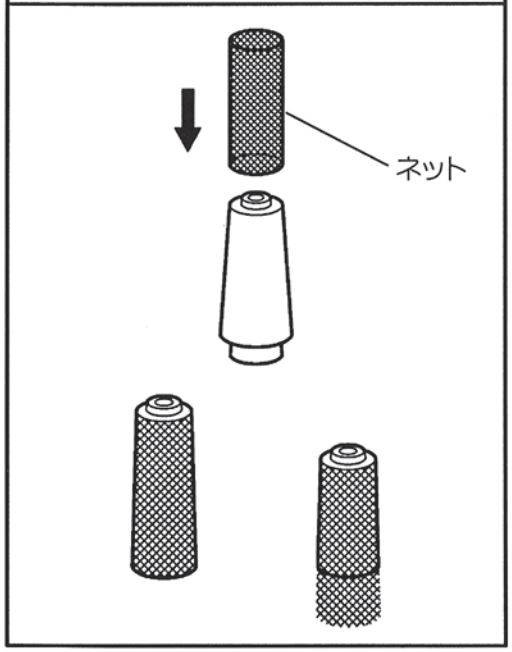
＊ 糸案内棒の糸穴が、それぞれの糸立て棒の真上にくるようにセットします。



糸ごまキャップ

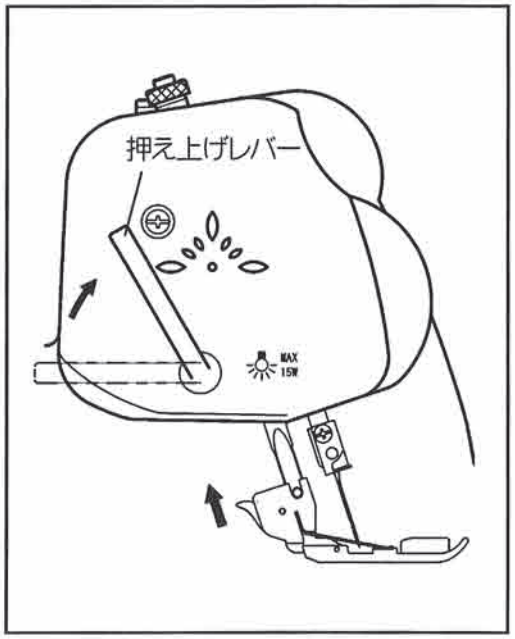
＊ 大きな糸ごま(一般的に工業用／職業用と呼ばれるもの)を使用するときは、あらかじめセットされている糸ごまクッションを用いて糸ごまを固定します。

＊ 小さな糸ごまを使用するときは、糸ごまクッションを取り外し、糸ごまを糸立て棒に差し込んで糸ごまキャップで固定します。



＊ 糸ごまの糸がほつれてしまうときは、付属品のネットを使用してください。

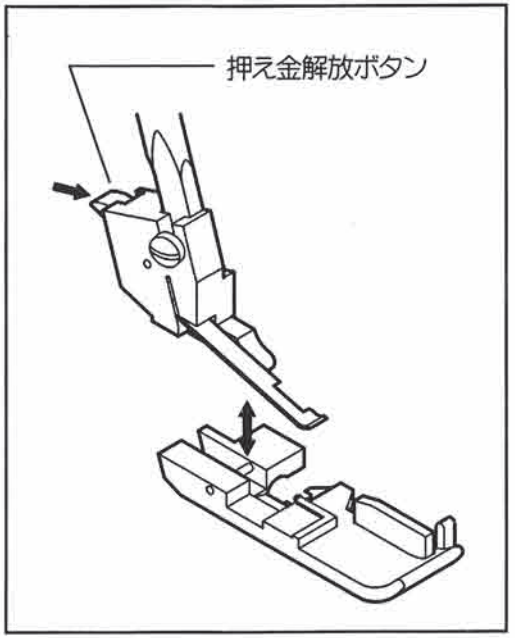
■ 押え上げレバー



＊ 押え上げレバーを上げると押え金があがります。

＊ 縫うときにはレバーを下げてください。

■ 押えの取りかえ方



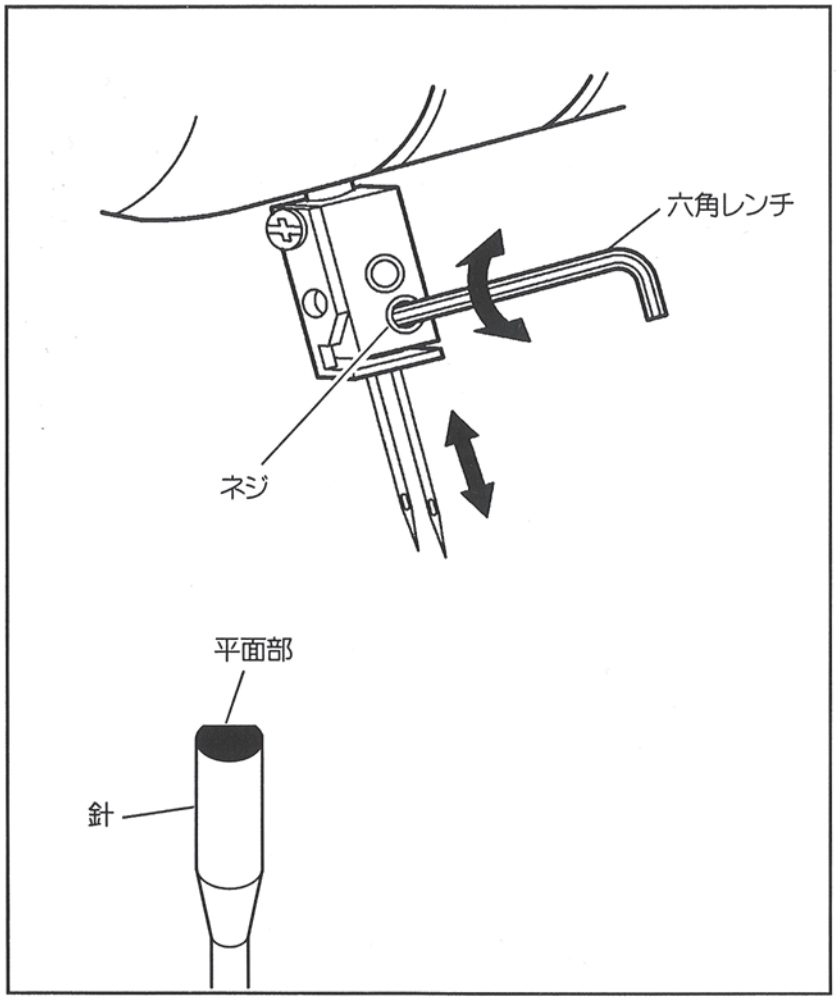
1．押えと針を上げます。

2．押え金解放ボタンを矢印の方向に押すと、押え金が外れます。

3．針板と押え金の針穴が合うように新しい押え金を針板の上におきます。

4．押え上げレバーを下げると押えがセットされます。

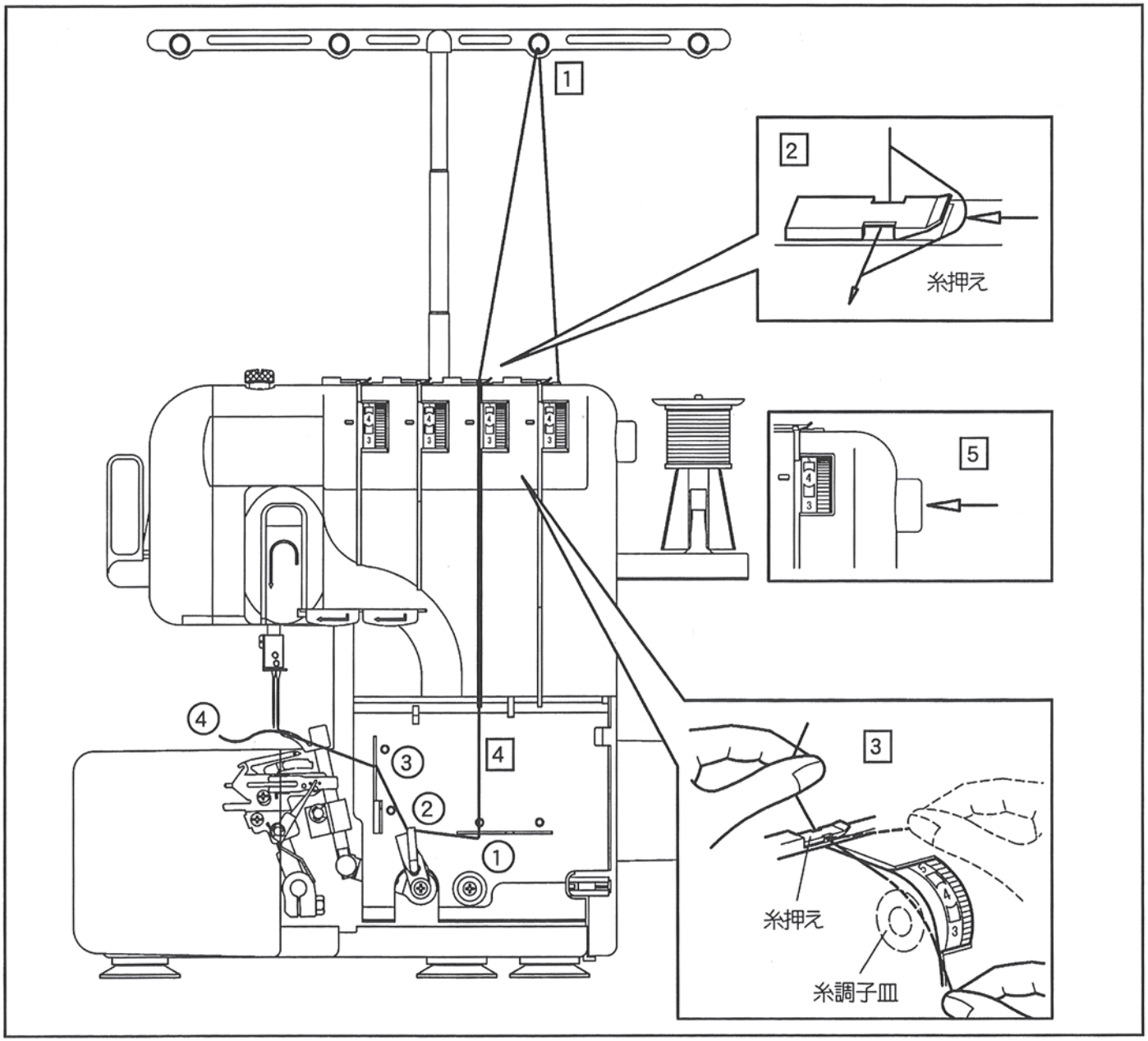
■ 針の取りかえ方



このミシンには、あらかじめHA×1の針が取り付けてあります。針が曲がっていたり、針先がつぶれていれば、ただちに、新しい針と交換してください。
又、布地に合っていない針を使っている場合も、適当な針に取りかえてください。

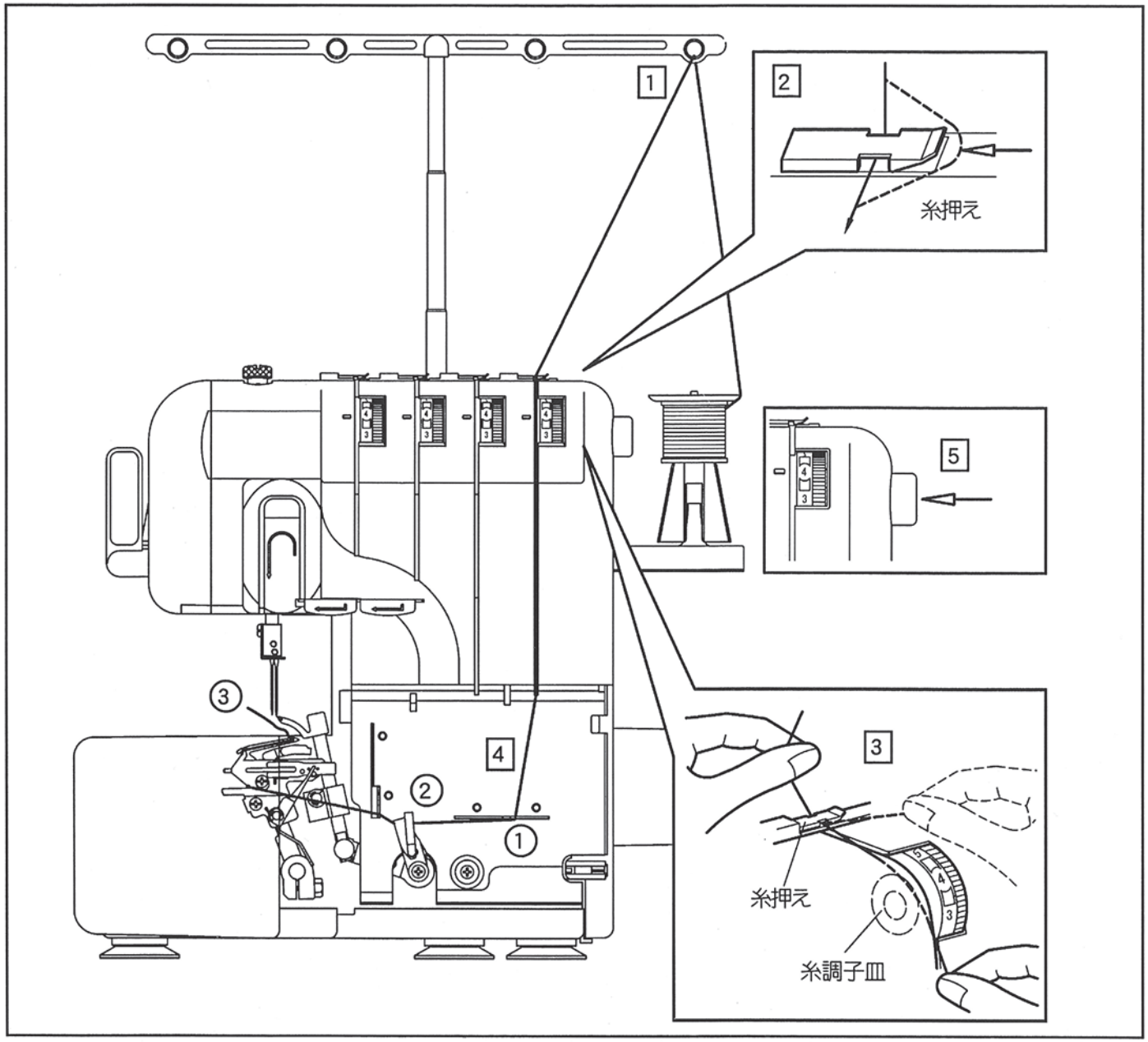
1. 電源を切ってください。
2. プーリーを手前に回して針棒をいちばん上まであげてください。
3. 針止めネジを付属の六角レンチでゆるめて、針を外します。
4. 針の柄の平らな面を向こう側に向けて持ち、針棒に差し込みます。
5. 針を針棒の溝穴の一番上までいっぱいに差し込み、針止めネジをしっかりしめます。

2．さあ縫ってみましょう
■ 糸を通しましょう



上ルーパー糸を通します

1. 電源を切り、針を上まで上げます。
2. 前カバーを開けます。
3. 右から2つめの糸ごまから糸を引き出して、糸ごまの真上の糸案内の糸穴に糸を通します。(図1)
4. 右から2つめの糸押えに糸をかけます。(図2)
5. オレンジ色の糸調子ダイヤルテンションの糸溝に糸を通します。(図3)
6. ①、②、③の順に糸をかけ、④の上ルーパーの穴に通します。(付属のピンセットを使用すると便利です)(図4)
7. 糸調子解放ボタンを押して、糸が糸調子皿の溝の奥まで入っていることを確認してください。(図3、5)



下ルーパー糸を通します

1. 右端の糸ごまから糸を引き出して、糸ごまの真上の糸案内の糸穴に糸を通します。(図1)
2. 右端の糸押えに糸をかけます。(図2)
3. ブルー色の糸調子ダイヤルテンションの糸溝に糸を通します。(図3)
4. ①、②の順に糸をかけ、③の下ルーパーの穴に通します。(付属のピンセットを使用すると便利です)(図4)
5. 糸送り装置を使用して下ルーパー溝に糸を通します。(10ページの自動糸送り装置の使い方をご覧ください)
6. 糸調子解放ボタンを押して、糸が糸調子皿の溝の奥まで入っていることを確認してください。(図3、5)

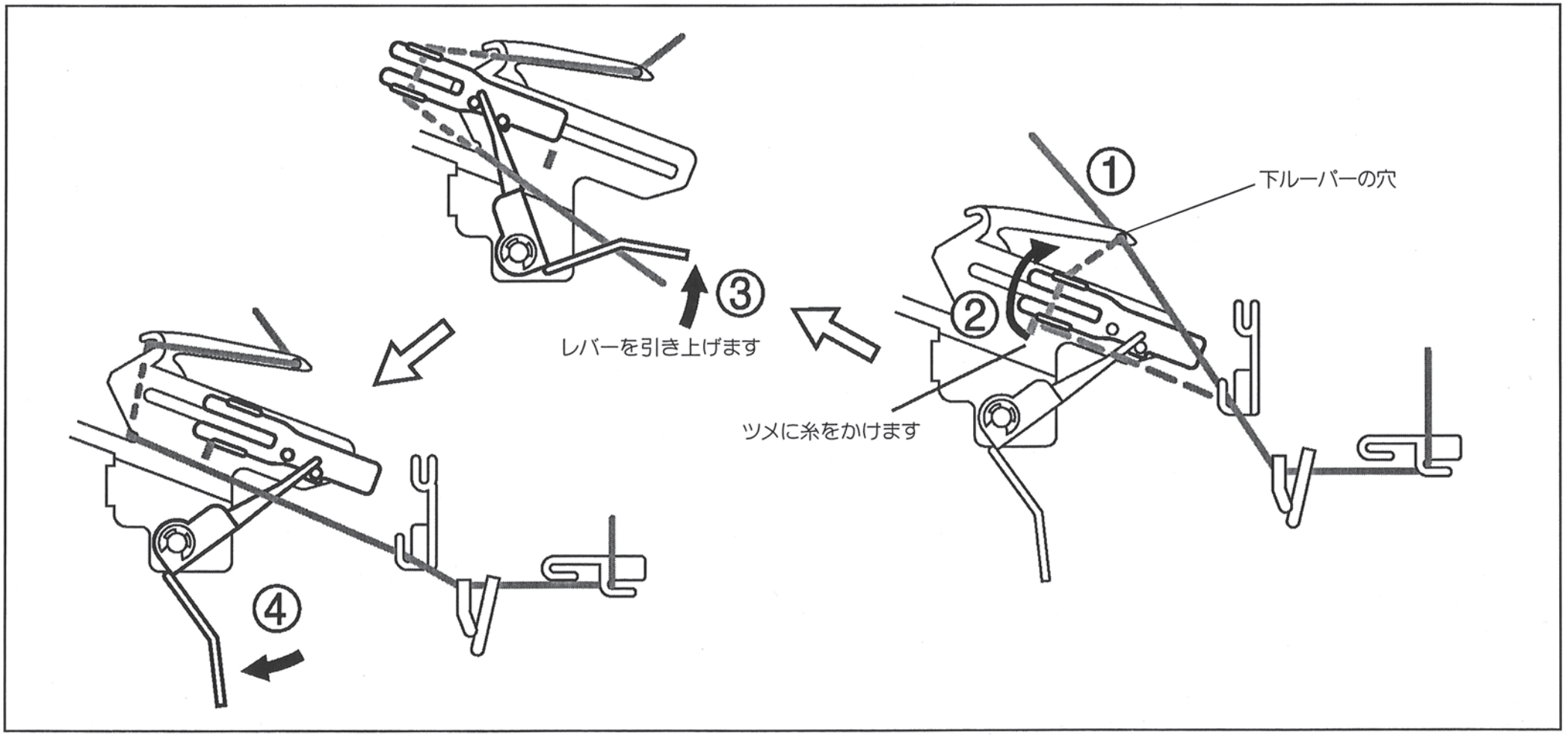
自動糸送り装置の使い方

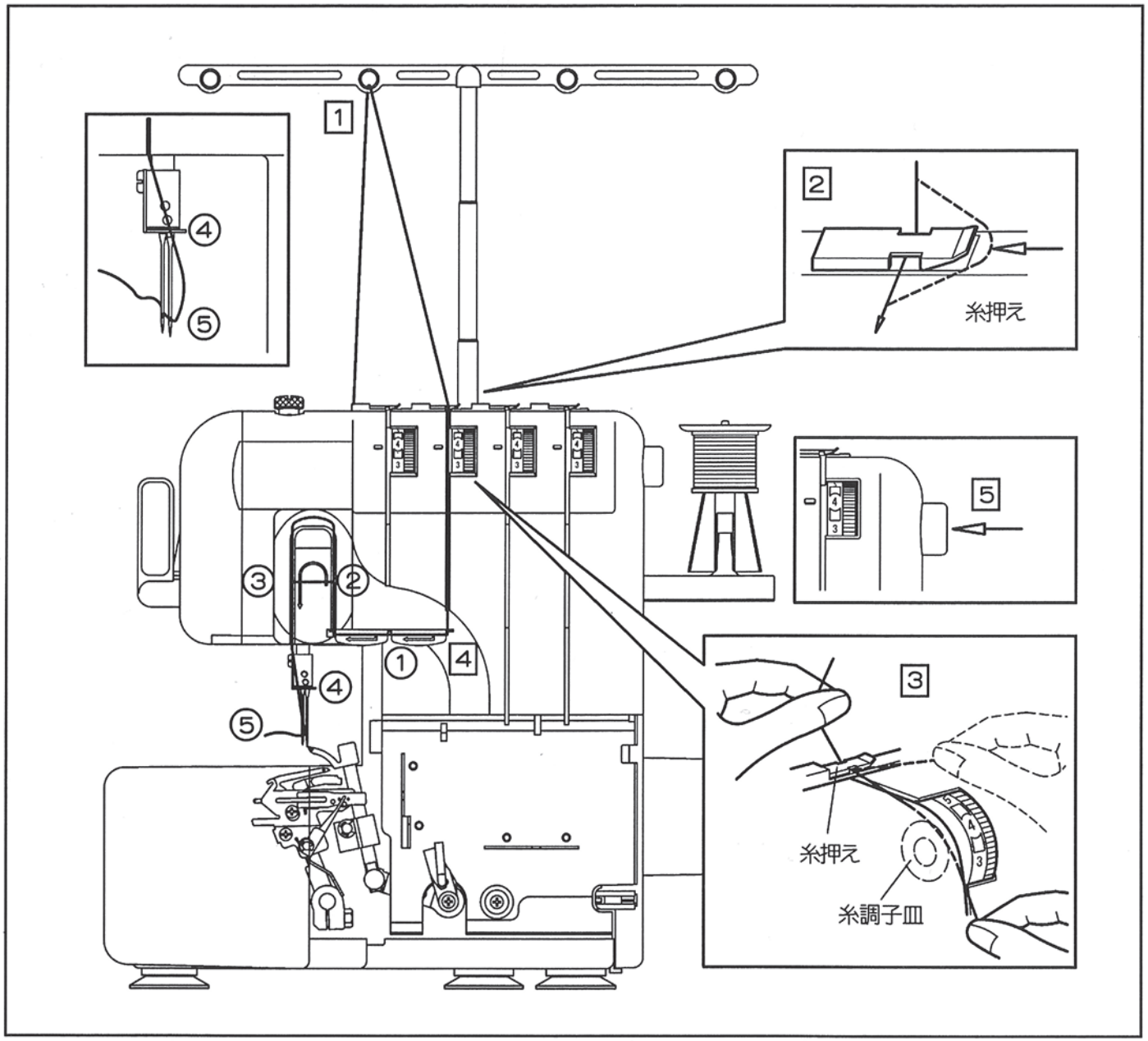
1．下ルーパーの穴に通します。

2．ツメに糸をかけます。

3．レバーを引き上げます。

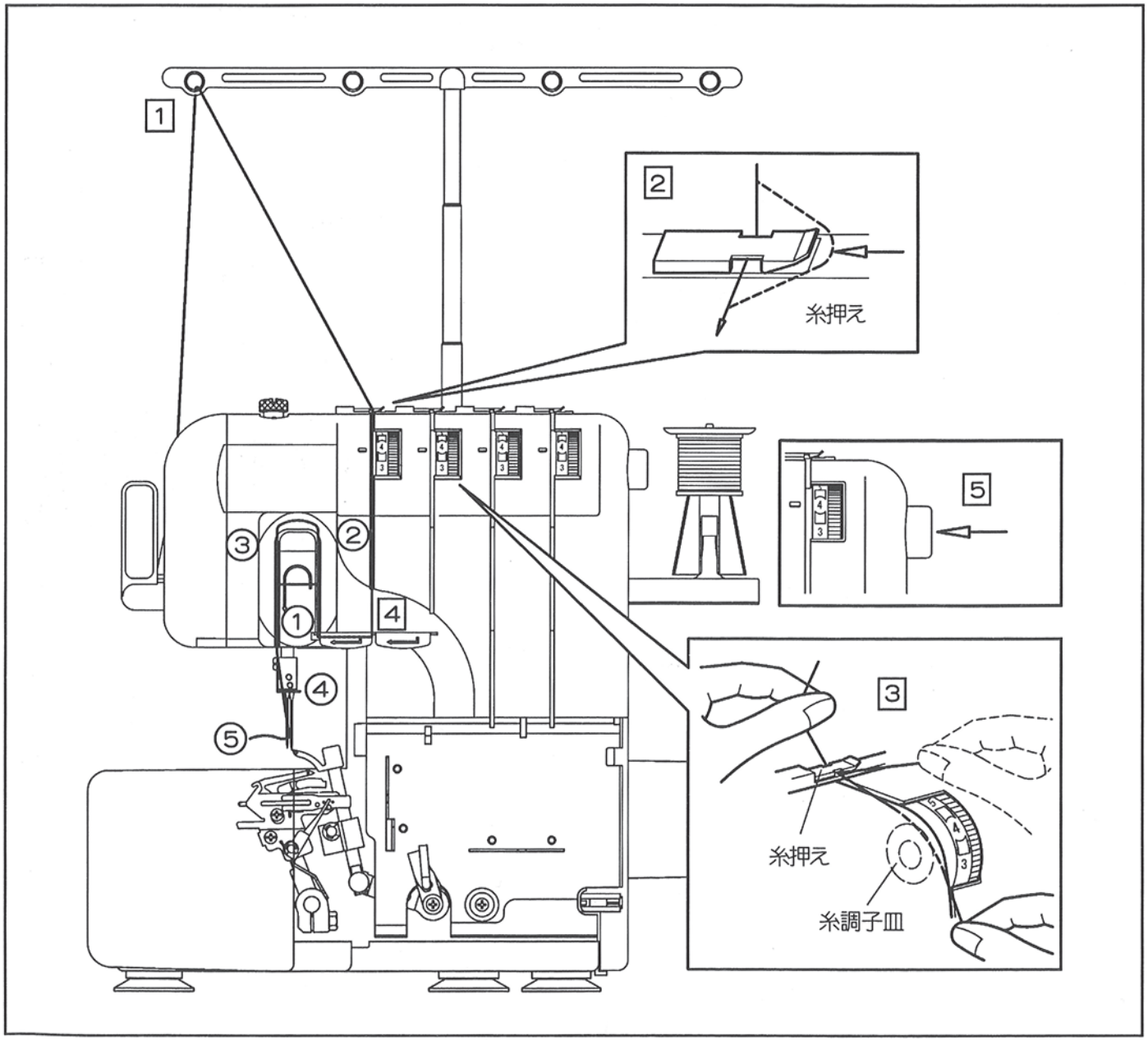
4．糸送りレバーを放すと糸の位置が定まります。





右針の糸の通し方

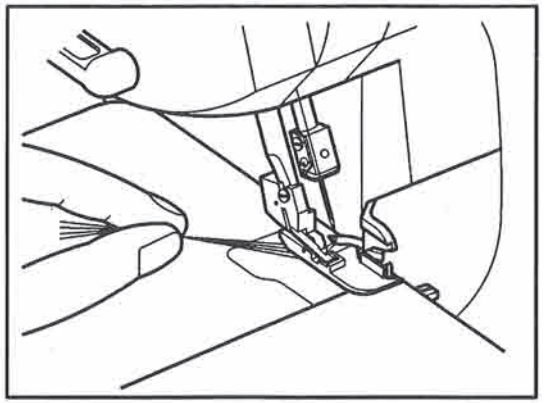
1. 左から2つめの糸ごまから糸を引き出して、糸ごまの真上の糸案内の糸穴に糸を通します。(図1)
2. 左から2つめの糸押えに糸をかけます。(図2)
3. パープル色の糸調子ダイヤルテンションの糸溝に糸を通します。(図3)
4. ①、②、③、④の順に糸をかけ、右針の針穴に通します。(図4)
5. 糸調子解放ボタンを押して、糸が糸調子皿の溝の奥まで入っていることを確認してください。(図3、5)



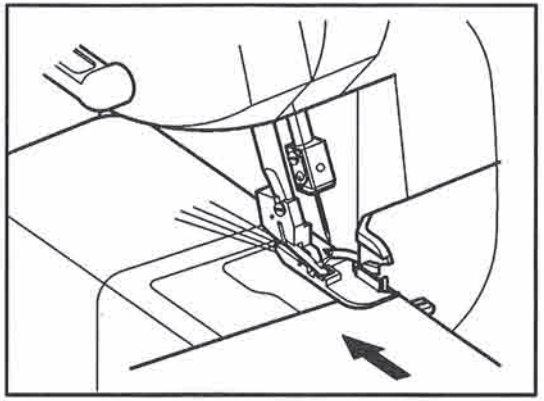
左針の糸の通し方

1. 左端の糸ごまから糸を引き出して、糸ごまの真上の糸案内の糸穴に糸を通します。(図1)
2. 左端の糸押えに糸をかけます。(図2)
3. ピンク色の糸調子ダイヤルテンションの糸溝に糸を通します。(図3)
4. ①、②、③、④の順に糸をかけ、左針の針穴に通します。(図4)
5. 糸調子解放ボタンを押して、糸が糸調子皿の溝の奥まで入っていることを確認してください。(図3、5)

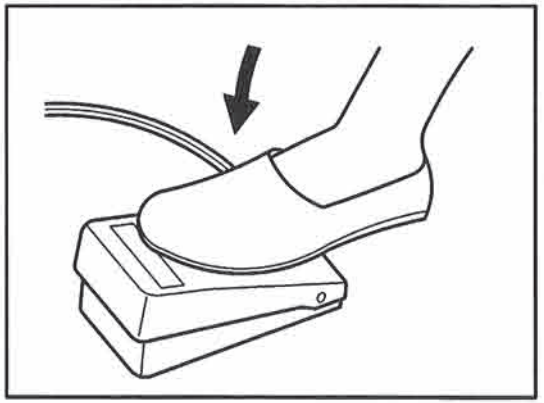
■ 試し縫い



＊ 針糸、上下のルーパー糸を押えの下に入れ、左手で糸の端を軽く後方に引っ張りながら、右手でプーリーを手前に回して、糸がチェーン状に繰り出されるかを確認してください。

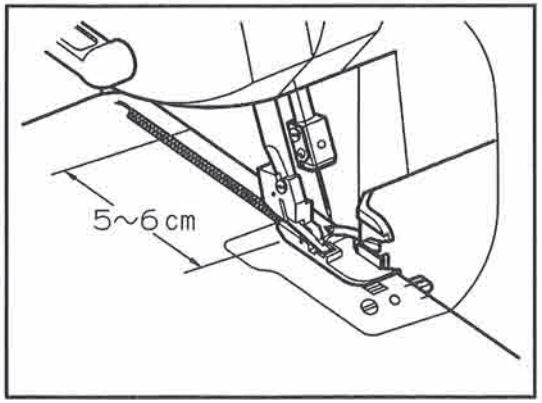


＊ 糸がチェーン状に繰り出されることが確認できたら、試し縫いの布を押えの下に、手前から差し込むようにして入れます。
（押えは下ろしたままでも、布は送られます。もし送らないときは押え上げレバーを上げて布を差し入れてからレバーを下ろしてください。）



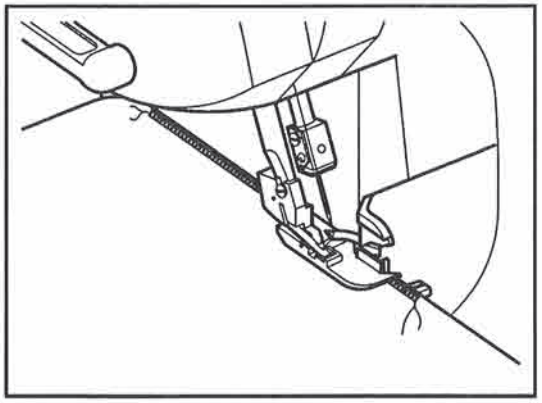
＊ 始めはコントローラーを浅く踏み、ゆっくりと縫い始めます。徐々に踏み込む量を大きくして縫い速度を上げます。

＊ 布は自動的に送られますので、手は布に軽くそえる程度にします。



＊ 布の端まで縫い終わっても、ミシンは止めずに縫い速度を落としながら布を後方に引き、5～6 cm 空縫いをしてからミシンを止めます。

＊ 空縫いの糸は2～3 cm 残してハサミで切ります。次に縫うときはそのまま縫い始めます。



＊ 縫っている途中で糸が切れた場合は布を一度ミシンから外して、上ルーパー糸、下ルーパー糸、針糸の順にかけ直します。

＊ 押え上げを上げて、布を糸が切れた部分の3～5 cm 手前にセットして押え上げレバーを下ろして縫い始めます。

■ いろいろな縫い方とミシンのセット

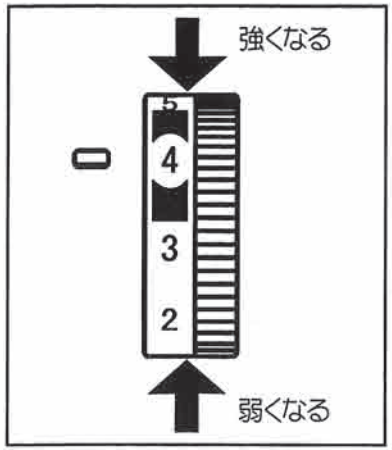
		標準縫い								レース状縫い	巻きロック	細ロック
布		薄地				厚地				普通地	伸縮性の生地（厚地不可）	伸縮性の生地（厚地不可）
糸		1本針3本糸		2本針4本糸		1本針3本糸		2本針4本糸		2本針4本糸	1本針3本糸	1本針3本糸
		合繊 #60～#90		合繊／ナイロン #80～#90		合繊 #50～#60		合繊 #50～#60		合繊 #60～#90	合繊／ナイロン #80～#90	合繊／ナイロン #80～#90
針（HAX1）		#75／11 ～ #80／12		#75／11 ～ #80／12		#90／14		#90／14		#75／11 ～ #80／12	#75／11 ～ #80／12	#75／11 ～ #80／12
送り長さ		3		3		3		3		3	1(R) ～ 3	1(R) ～ 3
かがり巾		3.5	1.5(R)	5.0	1.5(R)	3.5	1.5(R)	5.0	1.5(R)	5.0	1.5(R) ～ 3	1.5(R) ～ 3
巻きロックレバー		N	R	N	R	N	R	N	R	N	R	R
差動比率		1.0		1.0		1.0		1.0		1.0	1.0	0.7
糸調子ダイヤル	針糸張力	3～4		4～5		3～4		4～5		3～4	3～5	4～6
	上ルーパー糸張力	3～4		3～4		4～5		3～4		3～4	4～6	4～6
	下ルーパー糸張力	3～4		3～4		4～5		4～5		3～4	5～7	4～6

＊ 表の数値は標準的な目安です。 条件により設定を変える必要があります。

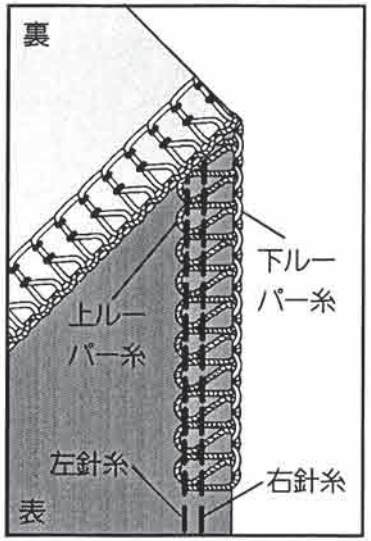
■ 糸調子のとり方

糸調子は、布地の種類や糸の太さ、種類によってことなります。
糸調子は、糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回すと強くなり、逆に数字の小さい方へ回すと弱くなります。

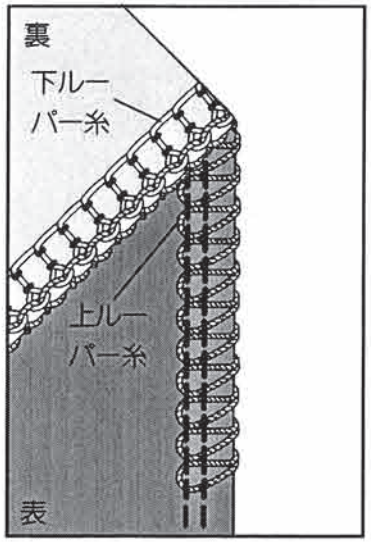
実際に使用される布地と糸を使って、縫い目を見ながら各糸調子ダイヤルで調整してください。



正しい糸調子

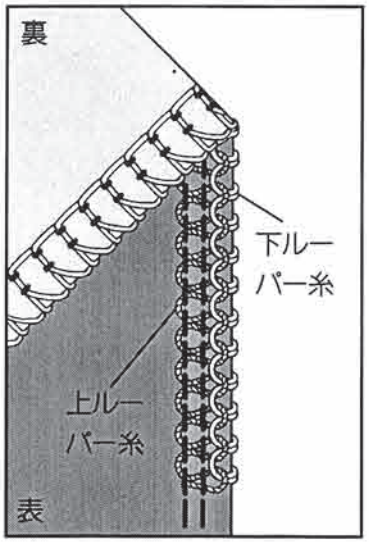


上ルーパー糸が裏側へ巻き込まれる場合



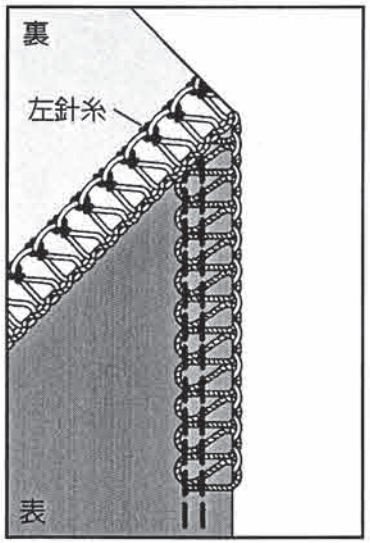
処置： 上ルーパー糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。
または、下ルーパー糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回す。

下ルーパー糸が表側へ巻き込まれる場合



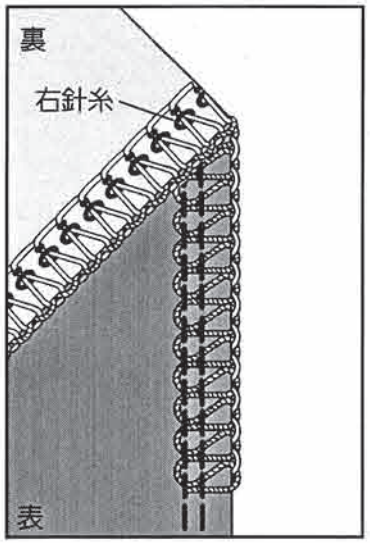
処置： 上ルーパー糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回す。
または、下ルーパー糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。

左針糸がゆるい



処置： 左糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。
または、両ルーパー糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回す。

右針糸がゆるい

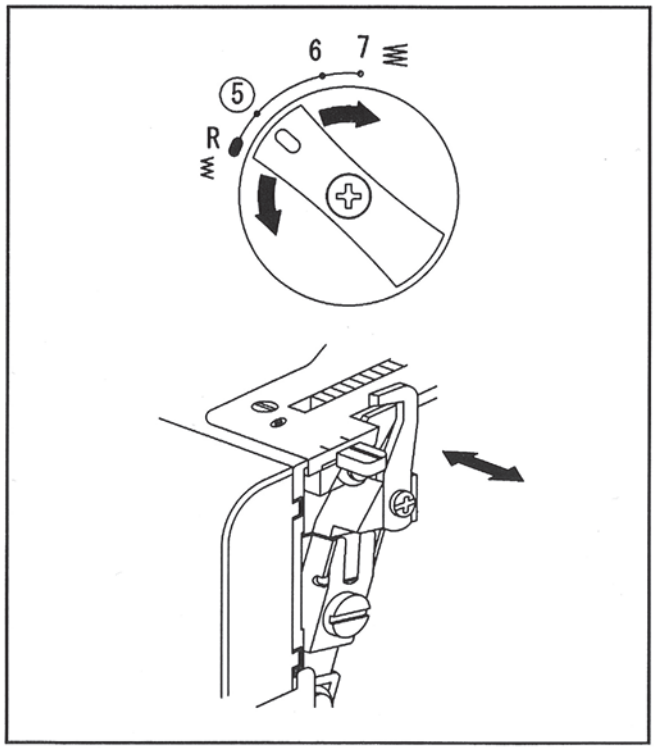


処置： 右糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回す。

■ かがり巾調節ダイヤル

＊ メスの位置を動かしてかがり巾を調節します。

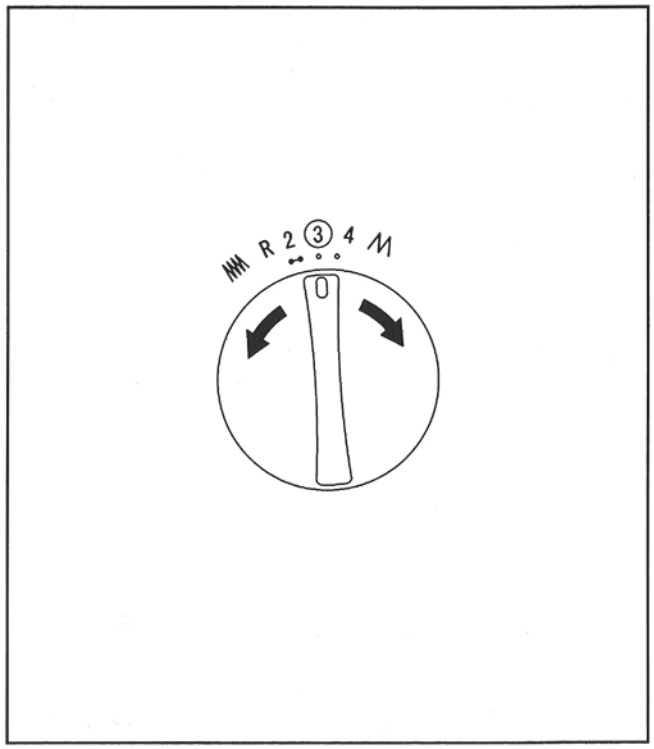
＊ 時計回りに回すと巾が広くなり、反時計回りに回すとせまくなります。



■ 縫い目長さ調節ダイヤル

＊ 布の縫い目長さを調節します。

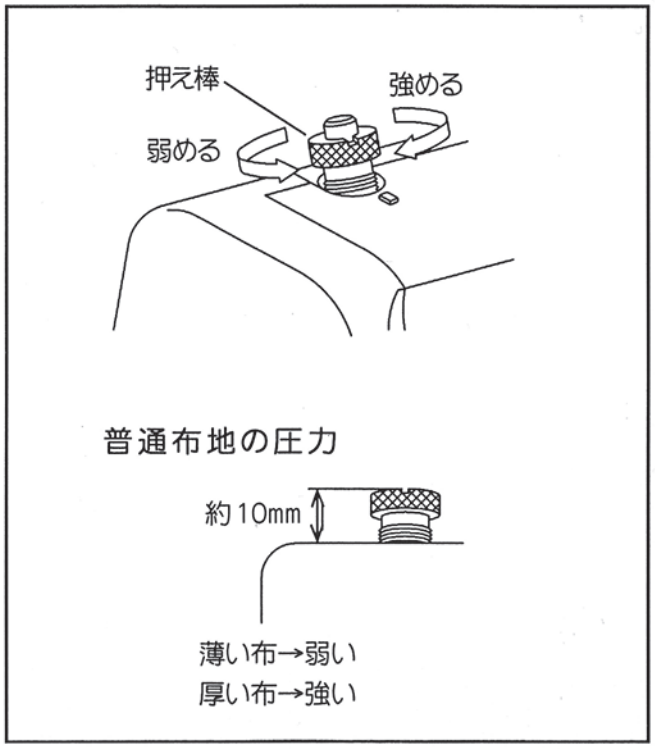
＊ 時計回りに回すと送り長さが大きくなり、反時計回りに回すと長さが短くなります。



■ 押え圧力調節ネジ

＊ 布の種類や厚みによって、布を押さえる圧力を調節します。

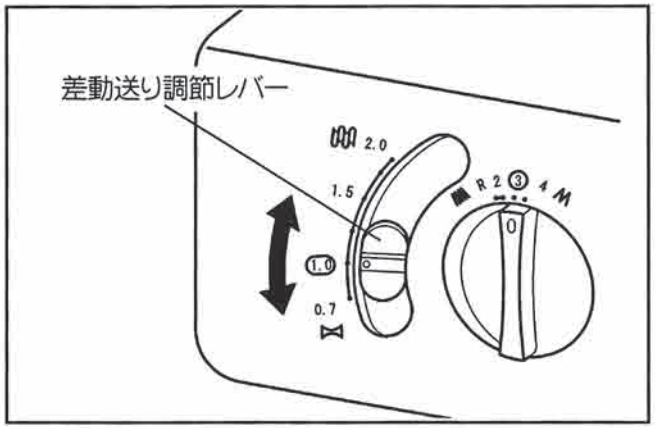
＊ 出荷時には一般的な布地に合わせて調節されております。（ほとんどの場合は、調節の必要がありません）



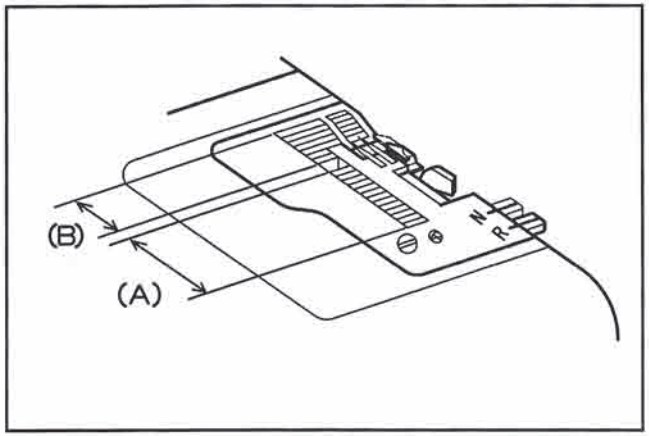
■ 差動送り

差動送り調節レバー

＊ 下記の図を参照にしながら、差動送り調節レバーを動かして調節します。
0. 7から2の範囲で調節できます。この範囲で最良の送り量が選べます。
差動送りを使用しないときは「1」にセットしておきます。

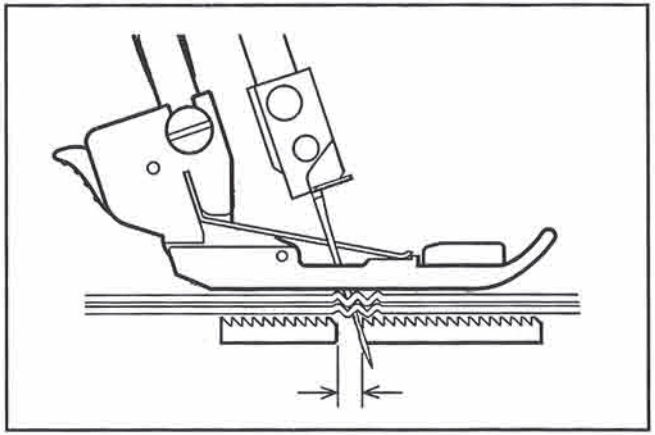


差動送り機構は2 個の送り歯が付いており、後ろ送り歯（B）に対して前送り歯（A）の送り量を調節することにより、布地を縮めたり、伸ばしたりしながら縫えますので、縫いじわや波打ちがなく、美しく仕上がります。



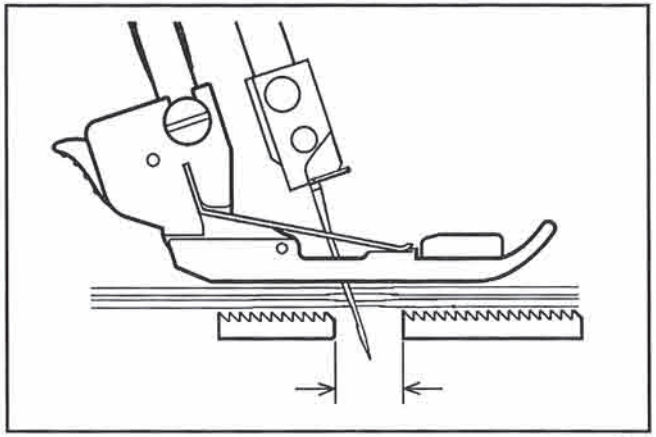
縫い伸びしやすい布地の場合

差動送り調節レバーを「2」の方に動かすと、前送り歯が後ろ送り歯より多く運動するので、布地の波打ちが防げます。



縫い縮みしやすい布地の場合

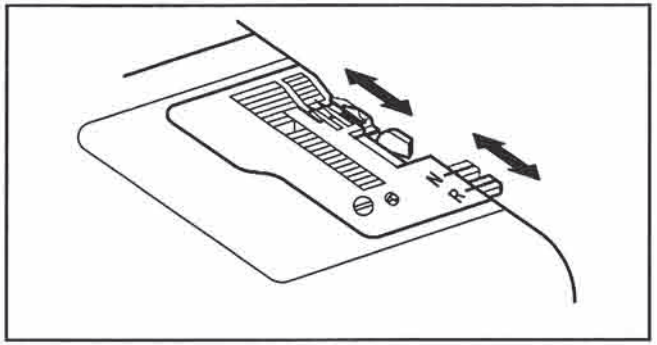
レバーを「0. 7」の方に動かすと、前送り歯の動きが後ろ送り歯より少ないので、縫いじわが防げます。



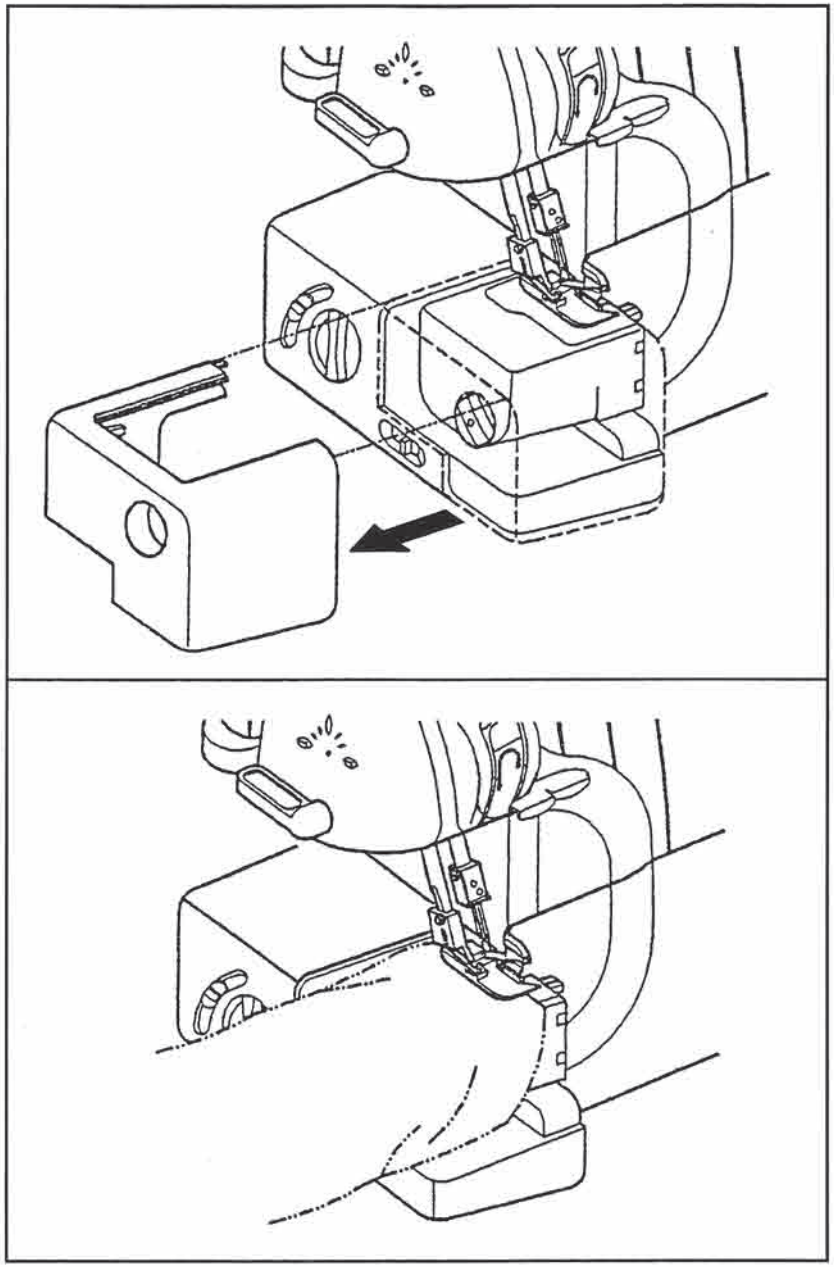
布　　地	セット位置	送り比率 後歯：前歯
縫い伸びしやすい布地：ニット、ジャージ、メリヤス	1－2	
織　　布	1	
縫い縮みしやすい布地：リネン、ジョーゼット、サテン、ローン	0.7－1	

■ 巻きロック切替えレバー

＊ 布端を巻き込む巻きロックをおこなうときに使用します。通常縫いのときはNの位置に、巻きロックのときにはRの位置にします。



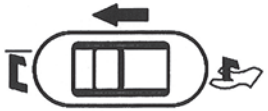
■ フリーアーム



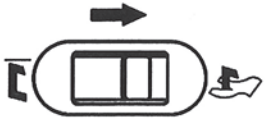
補助テーブルを左へ引き抜くと筒縫いなどに便利なフリーアームになります。
補助テーブルを取り付けるときは、図のピンがきちんと本体にかみ合うように、取り付けます。

■ 上メス解放レバー

①布端を切らない場合



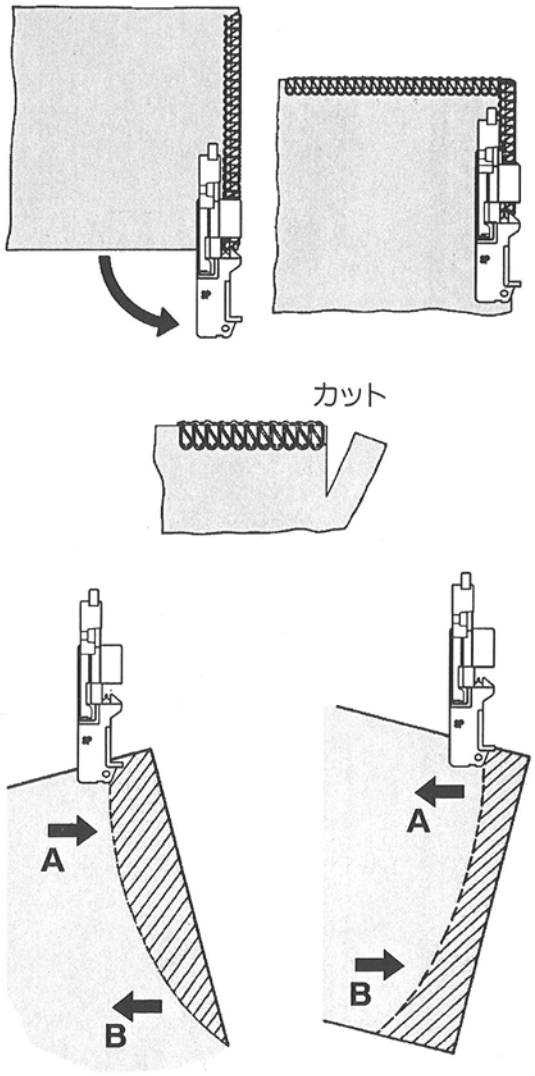
②布端を切る場合



＊ 布端を切る必要がない場合に、上メスを動かないようにします。

＊ 布端を切らないときは①図の方向にレバーをスライドさせます。

＊ 通常の布端を切るかがり縫いのときには、②図の方向にレバーをスライドさせます。



外角縫いの手順

1. 角まで縫い、針を上げて止めます。
2. 押え金を上げて、押え金と針板の突起にからんでいる糸をソッと引きすぎないようにして外します。そして布の向きを静かにかえて押え金を下ろし、再び縫い始めます。
3. 布をカットしながら角縫いをする場合は前もって角の部分を3cmぐらい仕上げラインに沿って切っておきます(布の向きを変えたときにメスが布を切り始める周辺まで)。

カーブ縫い

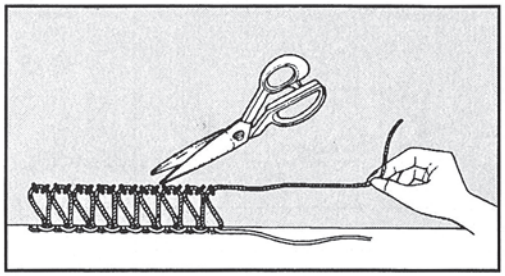
インカーブの縫い方

布地を押え金の右前端（または、少し左側）のところに縫い上がり線が来るように、A 点のところを上から左手で押えるようにして、B 点のところは右手で布地をつまんで、どちらも矢印の方向に布地を押し出すようにしながら布地の縫い上がり線が直線的になるように布地を導きます。

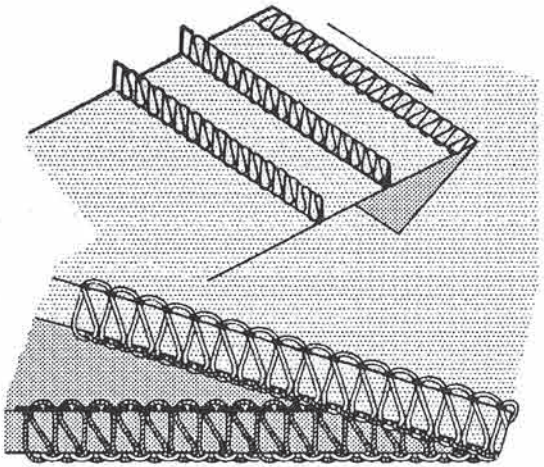
アウトカーブの縫い方

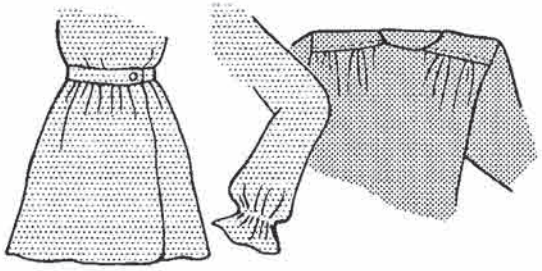
インカーブの縫い方とはA 点、B 点の布地を押し出す方向が逆になりますが、その他はインカーブの縫い方にならいます。

縫い目の解き方



縫いまちがえたりして縫い目を解く場合は、針糸のところどころをハサミで切って、ルーパー糸を引っ張れば、簡単に解けます。





飾り縫い

ピンタック

装飾に、または布巾をつめるのに用いられます。
折り山をメスで切らないように注意してください。

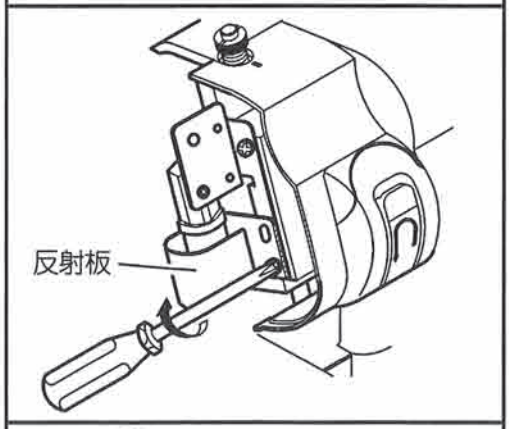
飾りブレード

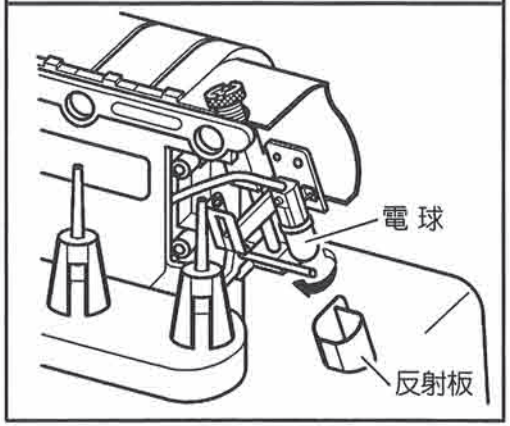
ブレードを両手で引っ張りながら縫っていきます。

差動送りを使ったギャザーの寄せ方

差動送り機能を応用して薄手の布地にギャザーよせが簡単にできます。
差動送りダイヤルを ”1.5～2”、縫い目調整ダイヤルを ”４” にセットします。
袖、裾、レース、ヨーク、フリル等に使えます。

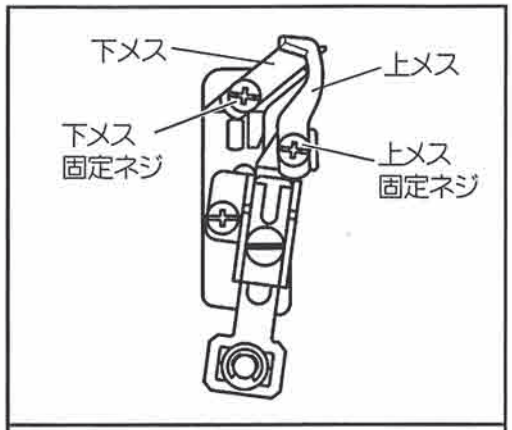
3．ミシンの手入れ

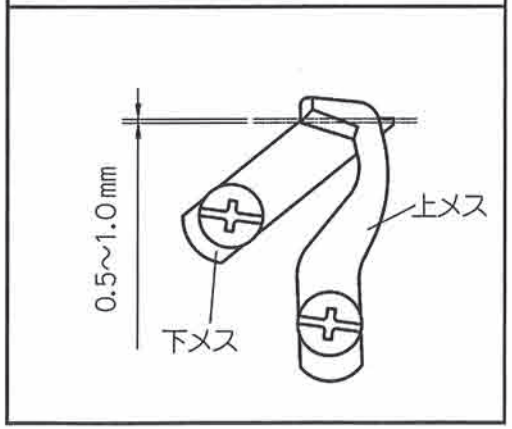




電球の取りかえ方

1. 電源スイッチを切ってください。
2. ランプの温度が充分に下がるのを待ってから、押え上げレバーを上げて裏側にある取り付けネジをはずし、レバーを取り外します。
3. ランプカバーの2箇所の取り付けネジをはずして、押え上げレバーとカバーを図の矢印の方向に取り外してください。
4. 反射板取り付けネジを外して反射板を取り外します。
5. 電球を図の矢印の方向に回して取り外し、新しい電球と交換します。



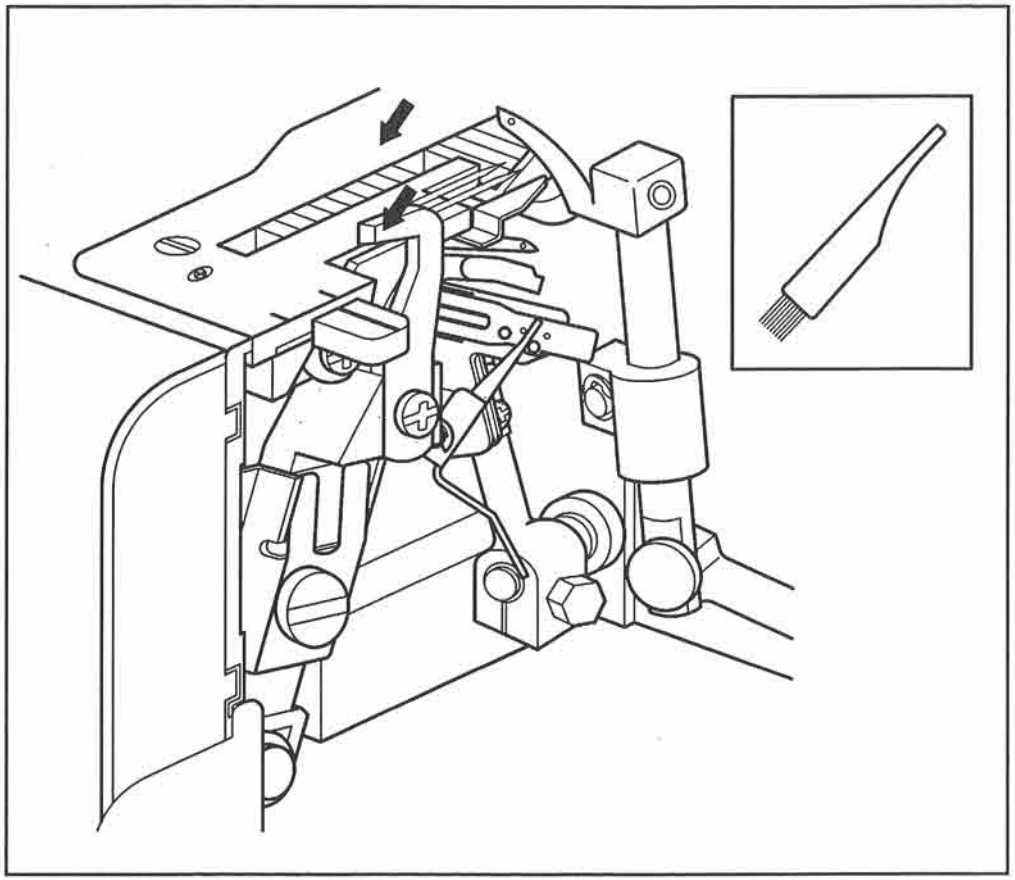


メスの取りかえ方

1. 必ず電源プラグを電源から抜いてください。
2. 押え金を取り外します。
3. 前カバーを開けて、プーリーを回して上メスが一番高いところに来るようにします。
4. 上メス固定ネジを外して、上メスを取り外します。
5. 新しいメスを図の方向に取り付け、ネジを軽くしめて仮止めします。
6. メスが一番低いところに来るようにプーリーを回します。
7. メスの角が下メスの角より0．5～1．0mm下がるように調整して、上メスの固定ネジをしっかりとしめます。

掃　除

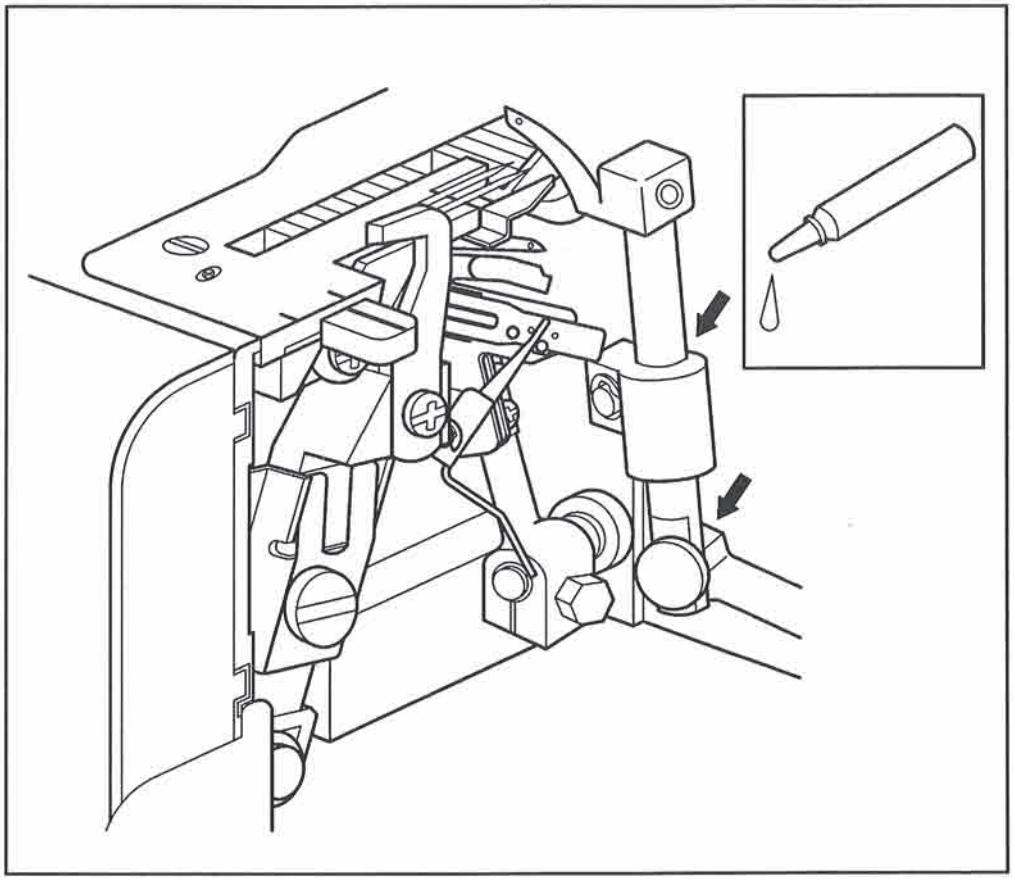
＊ ミシンを長持ちさせるためにも、使用前に図の上メスと下メス、送り歯付近に溜まる糸屑やホコリなどを付属のブラシで掃除してください。



注　油

＊ 使用延べ時間10時間程度で、図の場所に付属のミシン油を注油してください。

＊ ミシン用油以外は使用しないでください。



4．故障かな?と思ったら……

問　題　点	原　　因	対　　策	参照ページ
糸が切れる	糸の通し方が間違っている	正しく糸通しをしてください	8～12
	糸の調子が強すぎる	各糸の調子を調節してください	15
	針の取り付け方が間違っている	正しく取り付け直してください	7
	糸案内付近で糸がからんでいる	糸のからみをとり、糸をかけ直してください	8～12
	使用している針の番号が適当でない	適当な針と交換してください	14
針が折れる	針の曲がり、変形、磨耗	新しい針と交換してください	7
	布を無理に引っ張っている	布には軽く手を添える程度にしてください	13
	針の取り付け方が間違っている	正しく取り付け直してください	7、14
目飛び	針の番号が適当でない	適当な針と交換してください	7
	針の取り付け方が間違っている	正しく取り付け直してください	7
	糸の通し方が間違っている	正しく糸通しをしてください	8～12
	縫い目長さが正しくない	縫い目長さを調節してください	14、16
布にシワがでている	糸の調子が強すぎる	各糸の調子を調節してください	15
	かがり巾が適当でない	適当なかがり巾に調節してください	14、16
	糸の通し方が間違っている	正しく糸通しをしてください	8～12
	糸案内回りの糸がからんでいる	糸のからみをとり、糸をかけ直してください	8～12

5．ミシンの仕様

縫いスピード	1200 針／分 ～1300 針／分
縫い目長さ	1.0mm～4.0mm
差動送り比率	0.7倍～2.0倍
かがり巾	1.5mm～5.0mm
針	HAx1 #75/11～#90/14（付属品は#80/12と#90/14）
針棒ストローク	25mm
押え金上昇量	5.0mm～6.0mm
ミシン本体サイズ（巾／奥行き／高さ）	30cm／28cm／28cm（糸案内含まず）
ミシン本体重量	7.0kg
定　　格	AC100V 50/60Hz

＊各数値は設計値です。

Artisan

株式会社ジューキ

本社／〒102-0073　東京都千代田区九段北1-11-11　TEL03(3265)2851(代表)

札　幌 011(737)6821　　新　潟 0250(43)4451　　東　京 03(3265)8741
名古屋 052(962)7631　　大　阪 06(6768)3651　　広　島 082(227)5781
福　岡 0942(44)7921

修理等のご依頼はお買い上げの販売店を通じてご連絡ください。

お客様へ ＿＿＿＿＿＿
お買い上げ日、販売店名を記入されておきますと、修理などのときに便利です。

お買い上げ日	年　月　日
販売店名	TEL